

横須賀 市民記者がつくる 日日新聞

YOKOSUKA NICHINICHI SHIMBUN

INDEX

- 2 お帰りヤマアカガエル
- 3 犬もマナー向上へ
- 4 杖道の普及に注力

発行所：神奈川新聞横須賀支社 〒238-0004 横須賀市小川町21-9 TEL.046(822)2020 FAX.046(823)3845 ✉yokosuka@kanagawa-np.co.jp 第47号
 神奈川新聞のご購読申し込みはフリーダイヤル ☎0120-446-709。1週間のお試し読みも受け付けています。購読料1ヵ月3,189円
 平成28(2016)年2月7日発行

横須賀日日新聞

2016年2月7日

横須賀日日新聞 第47号
 2016年2月7日
 あなたが地域の主人公 10
 テーマ：のたろんフェア
 (多様性の確認の場)

※許可を得て掲載しています。

あなたが地域の主人公 10

のたろんフェア

ことしも「のたろんフェア」がやってくる。多くの市民活動団体・ボランティアが集まるお祭りだ。フェアの目的は、市民にさまざまな活動団体を知っていただくこと、市民団体同士のネットワークづくり、そして活動資金を集める場(バザー等)の提供などがあげられる。

私自身はこれらに

多様な市民団体が交歓

プラスして、互いを尊重し認め合う、多様性の確認の場でもあると考えている。市民活動を支援するサポートセンターのような施設は、全国にある。そこには多くの異なる意見を持つ団体も集まり、時にはセンター内で異なる意見の団体が隣り合わせて会合を行うこともあるのだ。多様性を認めあうこと、そこにNPOが強くなる鍵があると思っている。

20年ほど前、YMCAの研修でアメリカ各地の市民活動団体を訪ねた。テキサス・エルパソYMCAを訪問した際に面白い活動をしている団体があるからと某シエルターに連れていかれた。



【のたろんフェア】に集まった、ゆるキャラたち

一緒に食料の運び込みをした地元の若いボランティアが言った言葉が忘れられない。「アメリカは移民の国だ。先に来た移民が後から来た移民を拒否するなどありえない」。堂々と彼らを支援する人々もいれば、社会を混乱させる元凶だと声を上げる人々もいる。意見の違うNPOが主張しあう市民社会、国も行政もそれを見ない。そこには多様性を受け入れる社会の土壌と市民の強い自立心があるように感じた。

多様性を認めること、行政に必要以上に依存しない強いNPOを作ること。市民団体が社会の大きな柱となっていくにはこれが必要だと思う。そして行政は多様性を拒否しない、自分たちの政策に都合のよい団体のみを優遇しない。時に自分たちにとって不都合な主張をする団体がいても、それが社会全体の多様性を生み、より良い方向に向かうと理解する姿勢が市民社会を健全に育てると思う。

ことしの「のたろんフェア」は2月13、14日、市民活動サポートセンターと周辺で行われます。さまざまな団体が参加しますので、ぜひご来場ください。
 (横須賀市立市民活動サポートセンター)館長・高橋 亮